

パネルディスカッション

「女性の活躍が地方を元気にする」をテーマに、地方で女性が活躍するには何が必要かを各パネリストが発表しました。



女性の就労と 育児や介護との両立について

川北 秀人 (かわきた ひでと) さん

IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」
代表者兼「ソシオ・マネジメント」編集発行人

今後、女性の就労促進には子育て支援だけでなく、介護にやさしい環境づくりが重要です。そのためには男女がそれぞれの特性を活かして協力すること、また地域の特性を見極めた対策を講じることが必要です。



時間と場所にとらわれない 働き方の創出

秋好 陽介 (あきよし ようすけ) さん

ランサーズ株式会社 代表取締役社長 CEO

企業と個人がインターネット上で仕事をするクラウドソーシング事業を行っています。近年主婦層の登録者が増えています。東京の仕事を地方に再分配し、機会を創り出すことで、女性や地域をITで活性化させたいです。



観光分野における女性の可能性

佐藤 郁子 (さとう いくこ) さん

株式会社JTB総合研究所
コンサルティング事業部 主任研究員

急増する外国人観光客や市場の変化により、地域の意外な資源を生かした観光へのニーズが高まってきています。生活者として地域を知り、柔軟な感性を持ち、人脈やネットワークがある女性の活躍が、今後更に期待されています。



女性が活躍するための取り組み

鈴木 英敬 (すずき えいけい) さん

三重県知事

「みえの育児男子プロジェクト」を立ち上げ、男性不妊治療費助成事業を開始し、育児男子アドバイザー養成を行いました。また、女性が活躍できるように、長時間労働を抑制するワークライフバランス推進キーパーソンを設置しています。

第2部 市民活動報告



ボランティア活動から つながる今

看護師：能戸 洋子 (のと ようこ) さん

支援者のためのサロン「ひなたぼっこ」運営スタッフ

震災時、看護師として働いていました。いわき市でもボランティアを募集していることを知り、活動を開始しました。

初日は、がれきなどの片づけをしました。翌日より運営ボランティアとしてマッチングや活動場所の巡回、被災家屋の調査など、様々な活動を行ない、たくさんの人と関わりました。

その後、被災者や避難者、その人々を支援している人が利用できる交流サロン「ひなたぼっこ」の運営スタッフになりました。交流サロンでは利用者同士がお互いを気づかうことができる、よい関係づくりの手助けをすることができました。

何かできることはないか、できることを無理せずにやってみようという気持ちから始めた活動でした。これからも地域で人と人をつなぐお手伝いをしていきたいと思っています。



リエージュ州検診センター から学ぶ

金子 隆子 (かねこ たかこ) さん

(一社)国際女性教育振興会いわき

日本の乳がん発生率は12人に1人、対して欧米は9人に1人と高いにも関わらず、死亡率が減少しています。理由は乳がん検診率が高いからです。なぜ検診率が高いのか、その謎を探るため、マンモグラフィー検診車と性教育バスを見学しました。受診率が日本より高い理由は、「家庭医制度」と「性教育バス」にあります。

家庭医は、女性の一生を見届けるため、結果として安心して子どもを生み育てる環境が整い乳がん検診の定着を促すのです。

性教育バスは、学校やイベント会場で13歳以上の男女混合5～6人にエイズや性感染症、望まない妊娠を避けるための避妊、子宮がん検診等の教育をします。早期乳がんは90%以上が治ると言われています。今回の視察で、改めて日本の女性も早くから検診を受けて欲しいと強く思いました。